

尾張自然観察会通信

2025年3号

発行3月1日



アカボシゴマダラ (タテハチョウ科) 幼虫

近年、見る機会が増えた大型のタテハチョウの仲間で、移入個体群は特定外来生物に指定されています。

成虫の斑紋はゴマダラチョウに似ていますが、後翅の外縁に赤い斑点がでます。(春型には赤い斑点が出ない個体もあり。)

幼虫はエノキを食草とし、背の突起は4対ありますが、3対目が大きいことでオオムラサキと区別できます。

-----目 次-----

当面の行事案内	1
定例観察会報告	2
善師野自然観察会 (1月)	2
尾張北部自然観察会 (2月)	3
森林公園自然観察会 (2月)	4
木曽川下流自然観察会 (2月)	5
海上の森自然観察会 (2月)	6
日進岩藤川自然観察会 (2月)	7

当 面 の 行 事 案 内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
3/1 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
3/1 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
3/2 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	霜	090-3560-0964
3/9 (日)	木曽川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
3/15 (土)	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
3/16 (日)	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
3/22 (土)	善師野	9:30~15:00	善師野駅前 (農道駐車不可)	平井	052-504-5223
4/5 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
4/5 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
4/6 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	霜	090-3560-0964

■愛知県自然観察指導員連絡協議会総会&講演会

3/20 (木・祝) 13:30~ 名古屋市中小企業振興会館 吹上ホール 第7会議室

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所: 〒482-0007 岩倉市大山寺元町 12-3 メールアドレス: BZA03620@nifty.ne.jp

定例観察会報告

第347回 From 善師野 2025.1.25 (土) 晴 参加者 一般10名 指導員5名

1月は特に場所を決めないで善師野周辺を歩くことにしています。今年は桃太郎神社裏から鳩吹山の尾根に出る遊歩道「せせらぎルート」を時間までゆるゆると登りました。これまでこのルートは夏に歩いていますが、冬は初めてでした。どんな力が加わったら岩がこんなにグニヤリと曲がるんだろうと思いながらチャートの褶曲を眺めながら小川に沿って登って行きます。岩には一見するとホソバコケシノブそっくりのハイホラゴケやミヤマノコギリシダなど、善師野では見られないシダが現れます。溪流ならではの鳥、ミソサザイもチラチラと姿を見せてくれました。(平井)



チャートがグニヤリ

小さなウオーターライダー

イノシシがアオキを根こそぎ・・・



ハイホラは根茎が毛むくじゃら

コケシノブは根茎が針金

ギザギザのミヤマノコギリシダ



せせらぎルートを歩きました

サルがお出迎え、桃太郎神社

急登！川平遊歩道からの展望

尾張北部自然観察会

2025年2月1日（土）曇り

参加者 指導員（木村、太田、札野、霜、角田、後藤、後藤）7名、一般10名 計17名

冬の植物観察に各務原の河川環境楽園へ向かいました。今年はロウバイ、ソシンロウバイもまだ蕾、お目当てのセツブンソウ、フクジュソウ、ミスミソウも開花まであと一息の状態でした。ヒュウガミズキの花芽も膨らんでおり春の訪れは間近です。ジャノヒゲより大きなノシランの種子のコバルトブルーの皮をむきスーパーボールのように弾ませたり、巨大なサイカチの豆果の中の種子は小さく扁平であることに驚いたり、ウワミズザクラの落枝痕やハクウンボクの予備芽、コマユミの赤く尖った芽等の樹木の冬芽を観察しました。

昼食後エーザイの薬用植物園に移動し、野外ではハンカチノキの実、カシワの枝葉、カギカズラのカギ状の刺、サンザシの実、ニッケイ・ヤブニッケイ・マルバニッケイの違いなどを、温室では最初のコーラはその実が原料であったというコーラノキの花、ロウソクノキの花など普段目にするのことがない植物を観察することができました。

（後藤）



ロウバイ



セツブンソウ



フクジュソウ



ヒュウガミズキ



ノシラン



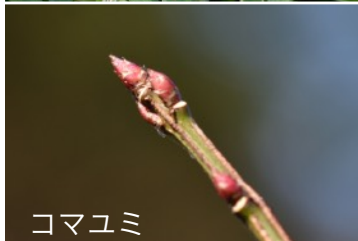
サイカチ



ウワミズザクラ



ハクウンボク



コマユミ



ミツバウツギ



イヌシデ



ホオノキ



カギカズラ



サンザシ



メグスリノキ



テンダイウヤク



ニッケイ



ヤブニッケイ



マルバニッケイ



ニシキギ



ナツメ



コーラノキ



ロウソクノキ



カカオ

森林公園観察会 レポート No373

【日時】2025年2月2日9:30~12:00 【天候】雨のち曇り 【気温】最高10.5℃、最低4.8℃(名古屋)

【参加者】指導員6名(高橋征、高橋か、出口、内海、櫻井、霜)、一般8名、計14名

雨天で参加者はやや少なかったが、本観察会で以前紹介されたコヤシタヌキマメの実を保管していたら**鞘が裂けてタネが結構遠くまで弾け飛んでいた**、と一般参加者のHさんが実物を持ってきてくださった。タネを蒔いて成長過程の観察をお願いしたが、このように**一般参加者が興味を持ってくださってとても嬉しい**。ぜひ指導員になって欲しい！今日の観察ルートは、児童公園～東門～沈床花壇～梅園～郷土の森～花木区～展示館で、ふと気になった植物や生き物を観察。観察した主な植物等と観察ポイントや学びは以下の通り。

【**児童遊園**】モミジバフウ(冬芽、幹に怪しげな白いふわふわの物体；なにかの卵か？要経過観察)、ハリエンジュ(冬芽；隠芽)、アカメガシワ(冬芽；裸芽)、ムラサキシキブ(冬芽；裸芽)、アオモジ(花芽、葉芽、落ちなかった去年の葉もほぼ落葉)、コウヤマキ(果実；球果で先端から葉が出ている、雄花の蕾)

【**沈床花壇**】ムラサキサギゴケ(開花数個)、ブラシノキ(果実；朔果で火災が起こると割れて種子を放出、それまでは何年分もそのまま枝に残っている)、ホトケノザ(開花、春の七草のホトケノザはコオニタビラコ)、ヒメオドリコソウ(開花)、サザンカ(絶賛開花中!)、タツナミソウ(種鞘；種を飛ばしたあと残る)

【**梅園**】ウメ(蕾；まだ固い!)、ウスタビガ(空の繭がウメノキに)、アカホシテントウ(抜け殻がウメの木に、ウメ・クヌギ・クリなどの木に付くタマカイガラムシを捕食)、クリ(冬芽；クリの実にそっくり)

【**水生園/花木区**】カラスザンショウ(葉痕)、ネジキ(冬芽；日本三大美芽のひとつ、別名のひとつ「ヌリバシ」；赤味を帯びた新枝が塗り箸のよう、ただし枝の下側は緑色；日が当たらないため?)、マンサク(蕾；黄色の花弁がチラ見え)、アセビ(開花1つ)、ジャノヒゲ(果実の皮を剥いて落下させると弾むのを男児が体験)

【**展示館**】スズカカンアオイの解説(植物の特徴やカンアオイ属の見分け方、ギフチョウとの関係)、このあとオプションで、希望者は開花中のスズカカンアオイ・ゼニバサイシンを観察。



出口(画)



霜(記)



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年2月9日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般：4名

指導員：太田、齋竹

テーマ 生きものの冬越し

今季一番の寒波で、前日(8日)は積雪のため138タワーパークは閉園でした。今日は日陰に雪が残る中、雪化粧した伊吹山を見ながらの観察会です。

まずは、駐車場近くの植え込みでカマキリの仲間の卵鞘を探しました。葉が落ちたユキヤナギなどの枝にオオカマキリとハラビロカマキリの卵鞘があわせて10個程付いていました。10m程の区間でしたから、かなりの密度と言えます。陽当たりのよい川原の草の上ではナナホシテントウが動いていましたが、エノキの幹ではヨコツナサシガメの幼虫が窪みに集まって越冬中でした。エノキの根元の落ち葉をめくってゴマダラチョウの幼虫を探しましたが見つからず、代わりに冬眠中のキリギリスの仲間の幼虫やワカバグモが出てきました。キリギリスの仲間の多くは卵で越冬し、幼虫で越冬するものは限られているので、調べてみたらどうやらコロギスのようです。また、大野極楽寺公園には、外来種に押され気味で近年あまり見かけなくなった在来種のイラガの繭がありました。



前日の雪が残る堤防下で冬鳥を観察

堤防道路脇で植物の冬越しの一形態のロゼットを観察しました。ブタナ、ヒメブタナ、タンポポ類、チチコグサ、ウラジロチチコグサなどのロゼットが集まっていました。同じキク科のロゼットでも、葉の厚さ、表面の毛の多寡、触感などがずいぶん異なっていることを確認しました。

ヒガンバナやコヒガンバナは、花が終わるとすぐに葉を伸ばし始め、今は葉を繁らせて光合成を行い、秋の開花に備えて養分を蓄えています。一方、春になって葉を展開すると言われていたキツネノカミソリが生えていた所を探しても、未だ葉は伸びていませんでした。同じヒガンバナ属(Lycoris)の植物でも、林の中で生育するキツネノカミソリは主に開けた草原で生育するヒガンバナなどとは生活サイクルがずいぶん違っているようにみえます。

大野極楽寺公園のミヤマウグイスカグラは、早いと12月から咲き始めますが、今季は低温のせいでしょうか、この日もまだ蕾のままでした。一方、近くの池の周りのハンノキは雄花序が伸び、まもなく花粉が飛びそうな状態でした。シナレンギョウやベニバナトキワマンサクも少数ながら花が見られ、春の近さが感じられました。

野鳥では、今季市街地ではほとんど姿を見かけないツグミが数は多くないものの出現したほか、イカルやジョウビタキなど冬の定番の野鳥が見られました。ただし、これまでほぼ毎年出現していたシメの姿は確認できず、例年とは少し様子が異なっているようです。

(報告：齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥：トビ、コゲラ、ハクセキレイ、キジバト、ドバト、ヒヨドリ、シロハラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

花：ソシンロウバイ、ジュウガツザクラ、ヤブツバキ、サザンカ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ

蕾：トサミズキ



落ち葉の下にいたコロギスの幼虫











蛹で越冬：在来種のイラガ



今が稼ぎ時のヒガンバナの葉



早春に咲くハンノキの雄花と雌花

	
観察風景	アオゲラ キツツキ科
	
ベニヒメヨコバイ? ヨコバイ科	ベニシジミ幼虫 シジミチョウ科
	
ヨコヅナサシガメ幼虫 サシガメ科	マンサク マンサク科
	
ホトケノザ シソ科	オオイヌノフグリ オオバコ科

今日は先週の日々に比べると少し暖かい。でもまた寒波が来るようです。日差しは少しずつ長くなってきて、草木も動き出しました。
(内海)

(鬼頭)

今年は立春を過ぎても寒かったのですが15日から続いて春のような暖かい日になりました。ナンキンハゼの木の枝先に殻を落とした実が白く、遠くからもよく見えました。川沿いのサクラバハンノキは雄花を開き、そろそろ雌花が熟す頃です。サザンカの花は咲き始めが遅かったので今年はいつまでも咲いています。いつもの春になればな、と思います。



ツグミ

12月上旬に初めて姿を現した時と同じサクラの枝に止まっています。あと2ヶ月くらいでシベリア方面に帰っていきます



ゴイサギ

運動公園では初見です。長くなった白い飾り羽根(冠羽)が見え、脚もピンクがかっていて繁殖が近いことを表しています。



ヒラズオオアリ

5シほどで頭部前面が切ったように平たい大型の働きアリ(兵アリ)です。枝に開いた虫食いの穴などで生活する樹上営巣性のアリです。この頭で巣穴の入り口を塞ぎ外敵の侵入を防ぐ習性があります。



ヨコヅナサシガメ幼虫

関東以南で見つかる南方系のサシガメです。夏に孵化し5齢幼虫で集団越冬します。口吻を伸ばして昆虫に刺して体液を吸う肉食性のカメムシです。



ハイイロチビフサヤスデ

3シくらいで、とても多足類のヤスデとは思えない外観です。歩脚は13対あり、尾部にブラシ状の毛の束があります。夏に産まれ5から6齢で越冬します。樹皮下に生息し、集団で見つかることが多いです。



ニセザクロゴケ

枯れ枝に着生した地衣類で、初めて見ました。地衣体は灰白色で、ウメノキゴケのようにひらひらせず子器(しき)が地衣体から裸出し鮮やかな橙赤色です。